

## 令和8年沖縄県赤十字大会を開催しました

1月21日（水）、浦添市のアイムユニバース てだこホールにて「令和8年沖縄県赤十字大会」が開催されました。

当日は、15の市町村長含め、県内各地から約480名が参加し、多額のご寄付や長年にわたるボランティア活動に対し、個人・法人あわせて192名の方々に赤十字有功章及び感謝状の表彰が行われました。

式典では、共催である浦添市の松本哲治市長から祝辞が述べられ、また、受章者代表として株式会社沖縄銀行常務取締役で、赤十字有功会の理事である我那覇健様よりお言葉をいただき、式典は厳かな雰囲気の中で進行しました。



松本哲治浦添市長によるご祝辞

表彰後は、糸満市赤十字奉仕団や青少年赤十字高校協議会の生徒による活動報告、モンゴル国へ国際派遣された支部職員による報告が行われ、赤十字の多様な取り組みが紹介されました。

アトラクションでは、浦添市赤十字奉仕団、北中城村赤十字奉仕団、与那原町赤十字奉仕団の皆さまが、それぞれ心のこもった踊りを披露してくださいり、会場はあたたかな雰囲気に包まれました。

最後は「愛の道」（日赤沖縄県支部の踊り）をもって式典が締めくくられ、大会は盛会のうちに終了しました。



大会の開催にあたり、ご協力・ご参加いただいた皆さん、本当にありがとうございました。





## 「美ら島レスキュー2025」に参加しました

1月15日（木）、16日（金）に開催された防災訓練「美ら島レスキュー2025」に、日本赤十字社沖縄県支部および沖縄赤十字病院の職員が参加しました。

本訓練は、沖縄県および自衛隊の主催により実施され、県内の防災関係機関等が参加し、大規模地震を想定した実践的な訓練が行われました。

日本赤十字社沖縄県支部職員は、県庁内に設置された災害対策本部の医療部門において、県庁職員やDMAT隊員、各医療機関職員と連携し、多数傷病者発生時の対応や医療体制の維持、県外搬送、要配慮者支援など、実災害を想定した課題への対応に取り組みました。

今後も関係機関との連携を強化し、災害対応力の向上に努めてまいります。



銀行等の窓口に訪問することなく、ご自宅からご寄付いただくことが可能です。

継続的なご支援によって赤十字の活動は支えられています

1日約70円からはじめられる、苦しんでいる人を「救うこと」。

たとえば毎月 <b>2,000円</b> のご寄付で 安眠セットを年間 <b>8人分備える</b>  避難所での夜を少しでも快適に過ごしていただけるようキャンピングマット、枕、アイマスクなどをセットにした「安眠セット」を年間8人分備えることができます。	たとえば毎月 <b>3,000円</b> のご寄付で 緊急セットを年間 <b>24人分備える</b>  災害発生直後からの避難所生活時に必要となるものが一式収納された「緊急セット」を年間24人分備えることができます。	たとえば毎月 <b>5,000円</b> のご寄付で パンガラデシユ避難民に こころのケアを <b>年間600人</b> に行える  日本赤十字社の職員は、パンガラデシユ避難民が先の見えない生活中で少しでも安心できるように、悩みを聞いてたり、相談になる活動を行っています。年間600人分のこころのケアを行うことができます。	たとえば毎月 <b>10,000円</b> のご寄付で 年間 <b>1台</b> の トイレ整備ができる  シリア難民キャンプの不衛生なトイレ環境を整えることで感染症を防ぎ、衛生状況を改善することができます。 年間1台のトイレを設置することで健康とプライバシーを守る活動を行うことができます。
--	--	--	---

クレジットカードによるご寄付のお申込みはこちら

日本赤十字社 寄付

インターネット : <https://donate.jrc.or.jp/lp/>

